

■北海道（総合）振興局森林室に勤務する林業普及指導員からの情報です

川上，川下一丸となった地域材の活用 ～ 釧路森林資源活用円卓会議の取組～

釧路総合振興局森林室普及課

【背景・目的】

釧路市は、平成17年に旧釧路市、旧音別町、旧阿寒町が広域合併し生まれた都市で、総面積136千ha、森林面積101千ha、森林率74%を誇る大森林都市となりました。また釧路市の一般民有林45千haのうち人工林面積は13千ha（人工林率は28%）あり、その78%がカラマツとトドマツで占められています。

人工林資源の多くは、建築材等に利用可能な林齢に達していることから、地域材の利用拡大が課題となっています。このため、釧路市では、森林組合や林業事業者等の木材供給側（川上）から建築関係者や農業協同組合等の木材需要側（川下）の関係者で構成される「釧路森林資源活用円卓会議」（以後、「円卓会議」）を設置し、課題解決に向け取り組んでいますので、その取組について紹介します。

【円卓会議の取組】

円卓会議は平成22年11月に立ち上げられ、試験研究機関や行政のサポートを得て活動しています。

会議では釧路市の森林の現状を情報共有し、具体的にその活用のために地域で何ができるのかを川上、川下が一座に集い協議しています。特に川上と川下など地域内の結びつきを強め、森林資源の循環利用をテーマに意見交換をしています。

さらに川上、川下の部会に分かれ、川上では地域特性に応じた森林施業、低コストでの木材生産、市有林の有効活用、川下では供給に見合う需要量確保のために地域材利用の拡大策について、各部会で必要な情報とその解決の仕組みを考えています。

【木づなプロジェクトへのステップアップ】

これまでの円卓会議での取組を一度整理し、さらに実際に行動を起こすべくステップアップさせた取

組が、平成23年度からの円卓会議「木づなプロジェクト」です。

地域の木材を地域内で高次加工し利用するため、

- ①もっと知る くしろの木
- ②もっと使う くしろの木
- ③もっと伝える くしろの木と技

以上を軸に、釧路市工業技術センターの協力の下で、釧路産のカラマツ製品化に向けた試作品を開発し地域材の有効活用と製品化の検討について模索を進めています。

現在までに、カラマツ製の学童用のいす、机や会議用テーブル、フローリング、パーティション、カーテンなどを試作しています。

また、地域材のアピールのため、ポスター作成、ラッピングバスによるPRや、地域FM局との連携、イベント出展、パンフレット配布を行いました。

さらに、地域材を利用した住宅の高付加価値化とブランド化を進めるため、高気密に重点を置いた釧路型の長期優良住宅建設体制を整備しています。

そのほか、川下において設計事務所や工務店に地域材を良く知り選択してもらうため、道総研林産試験場から講師を招き「人材育成研修会」を現在までに7回開催し、カラマツの乾燥技術等の講演により、地域材利用の促進につなげています。

【林野庁長官の表彰】

円卓会議のこれまでの活動が、地域に浸透したすばらしいものであると高く評価され、平成25年10月1日に東京都で開催された「木づかい運動顕彰」において、林野庁長官表彰を受賞しました。

釧路総合振興局森林室普及課及び音別事務所では、今後もオブザーバーとして木づなプロジェクト等への支援を継続していきます。



釧路森林資源活用円卓会議



木づなプロジェクトのラッピングバス



木づかい運動での林野庁長官表彰